

第2 形成的評価と指導の展開(一部)

第1回～第6回	第7回	第8回	第4回	第10回	到達目標 少年がよりよい地域づくりのために、社会参加を通して、地域理解さらには奉仕の精神を培い地域の一人としての自覚を高めさせる
	1. 自然観察 2. スケッチ ○自然に親しむ (大平山探訪) ・出欠の確認をする ・日程を説明する ・画用紙を配る 風景を描く (昼食) 風景を描く ・できあがった作品は提出する ・次回の学級日を予告する 解散 (雨天のため公民館でスケッチをする)	1. ヨーロッパの体験談 2. 郷土の昔話 ○国際理解を深める ○郷土の昔話を聞く ・出欠の確認をする ・日程を説明する ・指導者を紹介する ヨーロッパの体験談 ・若人の翼、参加者の話を聞く ・スライドを見る ・よく話を聞く 昔話 ・ラジオ 福島放送局「福島の昔話」より録音した船引町に伝わる昔話を聞く 感想文を書く 解散	1. 今の遊びと昔の遊び 2. 竹馬作り 3. レクリエーション ○昔の遊びと今の遊びの違いを聞く ○手作りの楽しさを味わう ・出欠の確認をする ・指導者を紹介する 講話「今の遊びと昔の遊び」 竹馬作り ・竹馬は各自持参する ・材料を準備する (昼食) レクリエーション	1. 正月の由来 2. もちつき 3. 反講式 4. 開講式 ○正月の由来を聞く ○1年間の反省をする ・昔の正月の様子を知りたい ・楽しいふんいきにする ・感想文を書く 1. 町のことが理解できたか 2. 社会参加活動で体得したものは何か 3. 自立創造性、連帯意識はどうか 1. 昔の遊びの様子が理解できたか 2. ひものしぼり具合はどうか 3. 上手に竹馬に乗れるようになったか 4. 全員が竹馬を作ることができたか 5. 包丁を使用してリンゴの皮がむけたか 1. 話を聞く態度はどうか 2. 諸外国を少しでも理解できたか 3. 方言・話の内容が理解できたか 4. 昔話に興味を示したか 1. スケッチのでき具合はどうか 2. 楽しくできたか	

第1回～第6回

※各回について指導した学習内容について、そのつど評価し、グループ及び子ども個人の到達度の確めを示したものである。

委員会より「ふるさとづくり少年教室」の研究指定をうけ、「わが町みんなの社会教育・体育」をめざし当事業を推進しました。以下事業運営における「評価」にしばって述べてみます。

その際、単に授業の実施のみでなくその成果をどう評価するかという視点で、一人一人の教室生が当事業のめざすところ、即ち到達目標をどの程度身につけたかを「形成的評価」を導入して評価しようと試みました。

(1) 諸問題の発見
実践の中で次のような問題点が発見された。

- ・あきつばいこと、人を頼りにすること、引つ込み思案、自分勝手であること。
- (2) 問題解決への手だて
帰属意識を高めて、係等の役割を十分に果たさせた。また集団の中の個人を尊重し、異年齢間の交流を深めさせた。
- (3) 評価(表2)

形成的評価の対象は、学習者の一人一人に行なわれるものであり、そのためには指導者(教師)が学習目標を正しく理解、把握し、そのうえで具体的に指導していくことが重要である。このことに注意して指導した結果、

- ・参加意識に大きな変化がでた。
- ・自立性、創造性が伸びた。
- ・連帯・奉仕の心が芽ばえた。

以上のほか、指導者側でも、自己評価が行われてマンネリ化の防止にも役立ち発展性のある効果的な事業の運営に役立った。

四、まとめ

教育委員会では、町民の自発的なスポーツ活動に協力しつつ、あらゆる機会、場所に個人の適性や健康状態に応じてスポーツができるよう条件整備に努めております。スポーツ会の設立もその一環であり、その効果的運営の方法として形成的評価の導入も試みたわけであります。

またこれらの活動のうえで、町の体育協会が大きな力を発揮してきましたのも民間主導型の社会体育の振興にも有意義であると思われまます。

おわりに

青少年育成会、地区スポーツ会(いづれも全戸加入)が社会教育の面のみならず、明るい町づくりに役立つていることは論をまちません。

今後は、公民館、体育館職員が、より創意工夫をした事業の運営にあたり社会教育のよりよい発展を期したいと考えております。町でも、カントリーパーク(特定地区公園)を建設中であり、積極的な町の未来像を策定しているとしていきますので、さらにスポーツ活動の充実をはかりたいものと考えております。

(社会教育主事 佐藤 碩彦)